

梅窓院通信

青山

住職挨拶

梅窓院第二十五世

中島 真成

今年の夏は暑い夏となりました。残暑も厳しいようですので、どうぞご自愛をお忘れなくお過ごし下さい。

さて、梅窓院、梅林苑ぼりんえんでの樹木葬納骨式、四月に続き、第二回目を六月末に執り行いました。樹木葬ですので、七月、八月といった日差し強い暑い時期を避けることにしたのです。

当日はあいにくの大雨の日にあたりました。参列される方のために新たに大きなテントを張り、できるだけ雨の影響を受けないようにと、お寺としてもできるだけのことをさせていただきました。

こうして二度の納骨式を終えて、気付かされたことがあります。お寺離れやお墓離れを昨今のマスコミは取り上げますが、導師を務めてみると、参列される方の故人への深い想いや、墓碑を建てられるお気持ちに触れる中で、納骨の仕方は多種多様にはなるものの、故人への想いには全く変わりが無いことを実感します。

お寺の立場からだと、いわゆるお墓を持つことが当たり前といった感覚になりがちです。とはいえ、時代の流れの中で埋葬方法も先祖供養の形態も変わっていきます。梅窓院も伝統は大事にしつつも、そうした変化に取り残されないようにしていきたいと思っておりますし、そして、それこそが皆様に寄り添うお寺、ということになるのかと思います。

さて、引き続き墓苑の話です。

最勝宝塔の正面の階段脇にスロープを付ける工事をしています。バリアフリーを標準にすべく、梅窓院の墓苑は長きにわたり工事をしてきましたが、今回の工事ですらようやくバリアフリー化が終わることになります。

スロープは場所をとりますので、今回もお墓の移動をお願いさせていただいたお檀家さんが少なくありません。ご理解、ご協力をいただきましたこと、誌面からですが、重ねて御礼申し上げます。



米の実りと秋彼岸

新宿区 香蓮寺住職

勝崎 裕彦

秋

の稲田の景色は日本人のふるさとの原風景の一つであるといわれる。紅葉黄葉に色づく山並みを遠く映して、秋の川はひとときわ水が澄んでひややかに流れる。黄金色に輝く稲穂が波を打って、豊かな実りに重たげに垂れる光景がまことにありがたい。そしてやがては九月中にも刈りはじまる早稲の穫り入れから、十月の本格的な稲刈りたけなわの時となる。

秋という漢字は、のぎへんの禾(穂の垂れた稲・粟のこと) + 束(たばねること)の会意文字で、作物をたばねて集めることである。まさに秋とは収穫物を穫り集める時であり、秋という字を和訓では「とき」とも読み、大切な実りの時の意味としてしっかりと受けとめているのである。

ところでことわざの言い習わしに、「実の入る稲は穂を垂るる」「実る稲田は頭垂る」、あるいは十七文字に詠んで「実るほど頭の下がる稲穂かな」とか「実るほど頭を垂れる稲穂かな」などという。稲の穂は実が入ると重くなり、自然に垂れ下がってくる。人間の場合も、学問や善行・徳行が深まるにつれておのずから頭が低く謙虚になるという意味である。実は仏教ことわざでは、「菩薩は実が入れば俯く」、単に「菩薩は俯

く」という。この場合の菩薩とは米の異称ということにもなるが、まさに大乘菩薩の慈悲の心が実る稲穂の姿の中に映し出され、お米という大切な尊い食べ物一粒一粒になぞらえられているのである。

さて以下は稲の秋をめぐって、稲の穂波のそよぐ稲田から稲刈りや稲架作り、さらには稲扱き・脱穀の光景などを思い起こし、思いつくしみながら、秀句を鑑賞したい。

稲垂れて産土神道をせばめけり (古郷) 稲の穂の寂光せよ淋し (碧秋)

五十崎古郷の句は、産土神の道という中七が効いていて、いわゆる生まれ育ったふるさとの道である。その古道を稲穂が深く垂れ下がって道を狭くしているのである。中西碧秋の句は、黄金色の穂明かりを「寂光」という仏教語で受けて、芒の淋しさと対比した。寂と淋の文字遣いの中に一つの意味を見たい。

早稲の香や山国の雲みな走り (みどり) なぞへ田の晩稲吹かる、石仏 (湘子) 陸稲の出来や右垂れ左垂れ (温亭)

早生種の早稲穂の実りを告げる風が山国にただよう。待ちに待った早い収

穫に雲もまた湧き立つように流れ走る。富沢みどりの句である。藤田湘子は、すじかいの田の晩稲と石仏を対比した。晩稲の田といえはすでに霜の降りる頃で、冷たく寂しい風に吹かれる稲穂と石仏である。篠原温亭は、陸稲の垂れ穂から「出来はいかに」と思いを寄せている。陸稲はおかほで、畑に作る稲である。水田を作ることのできない高地・台地に栽培されて、水稲に比べればその実り具合は不安定である。

深田なり阿修羅の如く稲刈れり (瓜人) 掛稲に鎮守の森は離れ在り (東洋城)

そして稲刈りである。まずは、「阿修羅の如く」という仏教語が中七に入った相生垣瓜人の句を掲げる。やがて稲干し・刈干し。稲架に積み掛けられた干し稲の風景は鎮守の森の立たずまいとよく似合う。松根東洋城の句は昔からの日本の里山風景の代表でもある。

秋彼岸——、実りの秋への感謝の思いをお米の実りに集約したい。米という言葉に「お」を冠して、「お米」と発音したいというのが私たちが遠い昔から受け継いできた心根・心遣いである。おいしい新米の一粒一粒に心を込めて、彼岸の供養棚に供えたい。

(大正大学名誉教授)

5・6・7月の 行事報告

第74回 念仏と法話の会 6月19日(火)

施餓鬼会法要 5月19日(土)



梅窓院傳通院 合同団体参拝旅行 1島根・鳥取 5月28日(月) 30日(水)



開山忌法要 能楽奉納 6月9日(土)



写経 6月9日(土)



郡上おどり in 青山法要 6月29日(金)



法要後に本堂で郡上おどりを奉納する郡上おどり保存会の皆さん。

盂蘭盆会法要 7月13日(金)



秋彼岸法要

九月二十三日(日)

彼岸寄席 午後1時〜 地下2階 祖師堂にて

三遊亭歌る多師匠 プロフィール

1962年荒川区生まれ。

1981年三遊亭圓歌師匠に入門。

1993年女性初の真打ち昇進(女流枠)。

2000年女流枠撤廃され、男性と同様の真打ち扱い。

寄席・落語の会から、講演会・司会業、コラム執筆など活動の場は幅広い。

2010年6月より落語協会理事・演芸家連合常任理事就任。

前座：三遊亭歌つをさん



秋彼岸会法要 午後2時〜 地下2階 祖師堂にて

※ご法要の受付は1階観音堂にてお済ませ下さい。

秋彼岸によせて

先日、ホームに転落した酔客を女子大生が踏切まで背負って歩
き救助したというニュースが報道されておりました。自分の身の
危険を顧みず、人のために命を懸ける勇敢さと、大人一人を一人で
背負った女子大生の体力に感嘆するとともに、私は仏様の慈悲に
ついて思い起こしました。仏様の慈悲とは、自分と人とを区別せ
ずに、喜びも悲しみも分け隔てなく人と分け合える状態をいま
す。この女子大生も自分を忘れてただ人の命を助けたいという思
いだけで、体が自然に動いたのではないかと思えます。このよう
な一瞬、普段は胸の奥底で眠っている、仏性(皆様の中にある仏様の
心)が働いている瞬間であります。普段は貪り・怒り・愚かさ(覆
われて、ほとんど現れませんが、本来皆様に備わっている仏様の心
(仏性)のおかげで成仏の道があるのです。この一縷の成仏の道を
力強く手繰り寄せてくれるのが阿弥陀様であります。そしてその
阿弥陀様に救って貰うためのお念仏なのであります。

阿弥陀様がいらつしやる西方へ太陽が沈むお中日とその前後三
日間ずつ、合わせて七日間の彼岸は正しい生活をする修行期間で
す。どうぞ皆様もこの女子大生のように、自分を忘れて人を助け
る仏様の心を忘れずに、有難いお念仏をお称えいただければと思
います。

(法務部 中島真紹 合掌)

塔婆申込み方法

塔婆回向料…1本/7,000円

- 同封のハガキにご記入の上9月15日(土)必着でお申込み下さい。
- 御回向料は、同封の振込用紙で郵便局にてお支払い頂くか、受付までお持ち下さい。(銀行・コンビニでのお支払いはできません。)

お檀家様へお願い

- お彼岸前後の土・日・祝日はお参りに来られる方で境内が大変混み合います。ご来寺の際は電車等、公共交通機関をご利用下さい。
- 9月20日～26日まで、境内駐車スペースは、お体のご不自由な方、車椅子をお使いの方の車を優先とさせていただきます。ご協力お願い致します。
- 会場内の空調は微調整が難しいため、ご自身で温度調整できる服装でご来寺下さい。

平成30年度 秋の動物慰霊法要のお知らせ

梅窓院の僧侶がご供養に勤めます。
ぜひご参列下さい。

時：正午 於：2階本堂

主催：株式会社日本エキスパートシステム



◆第9回秋彼岸写真展のお知らせ◆

応募作品を観音堂(1階)に展示致します。

締め切りは9月10日(月)です。

ご応募お待ちしております。

※詳細は同封のチラシをご覧ください。

おきおさんぽ会

天台宗・寛永寺かんえいじ

(JR上野駅)

今回は東京を代表するお寺、天台宗東叡山寛永寺を訪れました。パンダで人気の上野動物園や不忍池、さらに花見の名所の上野公園はもちろん、江戸時代にはその周辺も含む広大な境内地を誇っていた、まさに大寺院を訪れました。



寛永寺根本中堂。

天台宗の総本山はご存知、比叡山延暦寺ひえいざんえんりやくじです。

浄土宗を開宗された法然上人は念仏を唯一の行とする浄土宗を開かれたるまでは、この比叡山のお坊さんでした。ですが、念仏の教えを広めようと法然上人は比叡山を飛び出したのです。そして、この勇氣ある行動をきっかけとして、鎌倉仏教と呼ばれる諸宗派の祖師方が次々と比叡山を降り、各宗派を開かれました。つまり、比叡山延暦寺は各宗派の産みの親、つまり日本仏教のお母さんのような存在というわけです。

さて、この琵琶湖脇の比叡山延暦寺に対し、東の比叡山ということで、寛永2(1625)年に天台僧正てんたいそうじが創建したのが、今回訪れた寛永寺です。東の叡山で東叡山。寛永は延暦寺の延暦同様、時の元号です。

この東の比叡山延暦寺こと東叡山寛永寺ですが、徳川二代将軍秀忠公等から授かった30万坪を超える広大な境内、上野台地には京都になぞらえた諸堂や塔が次々と建立されました。幕末の上野戦争などで多くの伽藍は焼失しましたが、京都の清水寺に見立てた清水観音堂など、現存する建物も少なくありません。

この見どころ満載の寛永寺と上野公園ですが、今回は寛永寺の根本中堂こんぽんちゅうどう、徳川慶喜公謹慎の部屋よしのぶである葵の間、そして徳川家霊廟れいびょう、そして五條天神社ごじょうてんじんじやと不忍池辯天堂しのほのいけへんてんどうを巡るコースにしました。

集合は旧境内地の南北の真ん中にあたるJR上野駅の公園口改札前です。寛永寺を訪れるには鶯谷駅の方が近いのですが、特別拝観をお願いしたこともあり、根本中堂での住職の話は午後2時から、ここで先に五條天神社と辯天堂を回り、昼食をとる行程



徳川慶喜公が謹慎された葵の間。

葵の間のお便所は畳敷きで漆塗りでした。



不忍池に浮かぶ辯天堂。お参りの方が絶えませんでした。



寛永寺の旧境内、広い上野公園の概略説明から始まりました。



◀特別な許可をいただいて撮影した温恭院(十三代家定公)の墓。

根本中堂内陣での法要。経本を手に般若心経を唱えました。



辯天堂での法話。面白くためになるお話でした。



ご説明いただいた寛永寺圓珠院・住職。

を組みました。

最初に訪れたのは五條天神社、ちようど芽の輪くぐりの季節で、参拝者全員で芽の輪をくぐり、穢れを落としてスタートです。

続いて辯天堂へ。当初、辯天堂は不忍池の中の島にあり、参拝するには船で渡っていたそうです。

さて、境内地を京都に見立てたとすると、この池と島は一体どこになるでしょう……。

そう、京都の東北にある琵琶湖と竹生島ちくぶしまです。辯天堂本尊の八臂大辯才天はつびだいべんさいてんはまさに竹生島の宝蔵寺ほうぞんじから勧請かんじようしています。

その辯天堂では法話を拝聴し、続いて法要です。浄土宗ではあまり使わない太鼓が鳴り響く読経は迫力満点でした。

お楽しみの食事はJR高架下にある「じゅらく」。オムライスなど洋食をいただきました。

昼食後、寛永寺へ向かいますが、上野公園内を通るものの、炎天下を登りながらの30分弱の行程は、その後の参拝を考慮して避けることにして、一駅ながら電



五條天神社での芽の輪くぐりでお散歩スタート。



昼食をとった東京名物「じゅらく」。JR線の高架下にあります。



参拝者揃っての記念写真。前列中央が寛永寺圓珠院・

住職。

車で鶯谷駅へ。

寛永寺では根本中堂で圓珠院・

住職導師

のもと、般若心経を唱えました。住職の配慮で暑い本堂内での時間を短縮し、葵の間で話を聴かせていただきました。

そして、徳川慶喜公が謹慎した部屋に移り、旧境内地の古地図や慶喜公着用の陣羽織を拝見しました。その上、色々な質問に住職が丁寧に答えてくれました。

参拝最後は五代將軍綱吉公、八代將軍吉宗公、そして十二代家定公とその正室、篤姫様の眠る靈廟へのお参りです。

上野台地の北東端に配置された位牌所や靈廟は



緑深い靈廟。左奥は靈廟の入口となる常憲院(五代綱吉公)勅額門。



ご住職の丁寧な対応に皆聞き入りました。

緑豊かな聖地で、その厳かで幽玄な様に一同気の引き締まるお参りとなりました。

こうして第3回のお寺おさんぽ会も無事終了しました。次回は今秋開催予定で、池上本門寺、九品仏浄真寺のどちらかを予定しています。皆様のご参加をお待ちしています。

参加者の声

・寛永寺の広さに驚き、慶喜公のお部屋を見学できたことに感激しました。また、ご僧侶の法話を聴いて歴史の勉強になりました。

・お寺おさんぽ会は個人では見られない所を見学、法話が聞けるのが嬉しいです。

・寛永寺も立派、不忍池辯天堂も法話が良くて満足でした。

・寛永寺は歴史上重要なお寺で、以前より一度参拝したいと思っていたので、貴重な一日となりました。

今回から囲む人々には梅窓院にご協力いただいている九曜会の皆様にご登場いただきます。最初にご登場いただくのは島津法衣佛具店の代表取締役です。梅窓院僧侶の衣や袈裟などを納めていただいで、京都のお店にお伺いしました。

◆本日はお忙しいところ、お時間をいただきありがとうございます。ありがとうございます。

いいえ、わざわざ京都までお越しいただき、こちらがお礼を申し上げないと。

◆早速ですが、社長がこの仕事に入るきっかけを教えてください。

はい、高校卒業を目前に父が他界し、その時にお位牌を持って来てくれた方がとても感じが良かったです。父がいなくなり、長男だった私は働くつもりでしたので、こういう人のいる会社がいいな、と会社のことを伺ったところ、衣や佛具を扱っている会社で、ちょうど社員を募集していたので即決しました。

◆お父様の導きそうですね。

そうですね、まさに縁ですね。

◆その京都の法衣佛具店に入社され、その後独立された。

はい。その会社に13年間お世話になりました。30歳を人生の区切りと考えていて何かアクションを、と思っていたこともあり、思い切って独立しました。

◆梅窓院との関係はいつ頃からでしょうか。

お世話になっていた会社員時代からで、先代の中島真哉住職の頃からになります。

◆長いですね。

昭和55年頃でしたか、先代が知恩院や増上寺の御忌の導師を務められる時の袈裟の誂えがきっかけですね。

◆今の住職とは。

先代時代からですが、地元にある法衣店さんとの付き合いが、ちょっとしたことで途切れたようで、それをきっかけにして付き合いさせていただいています。

◆そうですか。創業から30年経たれたお店ですが、今は社員は何人いらっしゃいますか。

はい。営業が私を入れて6名。とはいっても昨秋から入店した息子はまだ数には数えられませんが、一応数に入れました(笑)。そして、事務員が3名。仕立てが社員2名、パート2名、内職が約20名ですね。

◆なるほど、衣や袈裟は仕立てが大切なのですね。衣ができるまでの工程を教えてください。

注文を受けると、柄や色などを打ち合わせ、自生地屋さんから染め屋さんへ、そして張り屋さんへ。張り屋さんから私どもの店に届き、それを裁って仕立て、最後にしっかり寝かせて出来上がります。



梅窓院墓苑の最勝宝塔に安置されている阿彌陀如来像の写しとなる阿彌陀如来像が奥の間に祀つてある。



島津法衣佛具店の暖簾を挟んで、中島住職と社長。

◆やはり手間暇がかかりますね。ということは、値段もお高い？

(笑)、そうですね、普通の洋服や着物といった一般的な大量生産品とは違いますから、そうした物からみると、とてもお高いでしょう。ですが、衣や袈裟は丁寧な扱えば一生どころか、二代、三代と持ちますから、とてもお安いでしょう。

◆梅窓院には僧侶も多く、さんには大変お世話になっていると思いますが……。

いえいえ、お世話になっているのはうちの方です。

◆創業以来、お付き合いが続いている理由は何でしょうか。

うちの衣や袈裟の特徴は色合いがやや淡目で昔ながらの伝統的なところ。そこを中島住職も気に入られているのではないかと思います。

また、梅窓院さんとは衣だけでなく、本堂の設えもお手伝いさせていただきましたが、その時の昔ながらの丁寧な仕事も気に入ってもらえたのだと思います。

◆そうですか、色々お世話になっているのですね。最後に梅窓院への要望などがございましたら、お聞かせ下さい。

梅窓院さんに限りませんが、お寺さんにはもっと色々なことを発信して欲しいですね。檀信徒さんという繋がりが、さらに檀信徒さんからの広がりを考えれば、お寺の可能性は無限に広がりますから。

その点では梅窓院さんの発信力はすごいですね。これを続けていって欲しいですね。

◆ありがとうございます。

これからもよろしく
お願い致します。



お店の奥の間で話を伺いました。笑顔が印象的な社長。



Restaurant
ACQUA PAZZA
Tokyo

リストランテ アクアパッツァ

今回は梅窓院から徒歩3分。今年の4月に西麻布・広尾から南青山へ移転オープンしたイタリア料理「アクアパッツァ」をご紹介します。

お店の一押しは、なんといっても日本での料理を広め、店名にもなっている「アクアパッツァ」です。

「アクアパッツァ」とは水オリーブオイル・ドライトマトのみで生の魚を煮るイタリアの代表的な料理です。

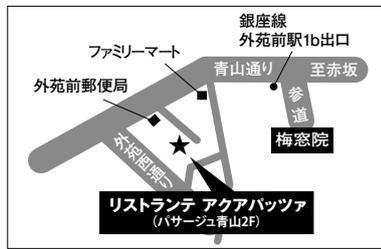
こちらのお店ではオリジナルでアサリを加え、さらに魚の表面をフライパンで焼いてから煮付けます。焼くこと

により、香ばしさが引きたち、表面はカリッと、中はフワッと柔らかい。二つの食感が楽しめる一品です。魚介とドライトマトを煮詰めた煮汁も旨みが凝縮されて極上の味わいです。

また、魚介だけではなく穀類や野菜をふんだんに使用した料理も多く、健康志向の日本人にはぴったりです。

ランチは1300円〜とリーズナブルな価格で頂けるのも魅力的です。

ぜひ、この店ならではの「アクアパッツァ」と旬の野菜を使用したイタリア料理を堪能してみてくださいいかがでしょうか。



営業時間／
ランチ 11:30～15:00(14:00 L.O.)
ディナー 17:30～23:00(21:30 L.O.)
定休日／水曜日
席数／80席
住所／東京都港区南青山2-27-18
青山エムスタワーパサージュ青山2F
TEL／03-6434-7506

店内は広く、大きな窓ガラスは開放感があります。20数名入れる個室もあり、法要の後席にも最適です。



ウィークデーランチセット
(月曜～金曜日)



前菜、パン、選べるメインディッシュがついて税込みで1,300円。写真はアサリと大麦のリゾット風。彩り豊かな野菜に穀物の優しい味わいが口いっぱいに広がります。



Pranzo Bコース
5,500円。
お店の看板料理「アクアパッツァ」が頂けます。旬の魚と野菜を使用した拘りの料理が堪能できます。

青山俳壇

選者「ウエップ俳句通信」編集長

大崎 紀夫

◎ 特選

○ 老鶯や継ぐ者のなき里の畑

◎ 入選

○ 塔乗口へいちばん先にゆく薄暑

○ リハビリへいつもの道を夏の夕

○ 浮き上がる大観の富士夏の雲

○ ライトアップの城仰ぎ見る帰省かな

○ 緑蔭に椅子ありちよつと一服す

○ 縁弄側の下に午後の日蟻地獄

○ ラムネ飲む昭和の音を耳にして

○ 一打二打鼓のひびく新能

○ 酢の加減少し多めに夏料理

○ 小枝よりこぼれてきたる青蛙

◎ 選者詠

○ 干草を大ききフォークで返しぬる

(ワンポイントアドバイス)

どこかにいったとき、俳句でその土地に挨拶することがよくあります。そのとき、その土地の何かを詠み込みます。例えば津軽では岩木山が有名ですが地元の人はお岩木やまとか呼んでいます。そこでわたしは「お岩木山に雲なき日なり青林檎」と詠んで挨拶したことがありますが、この句の場合は岩木山といわず、土地の人の使っている「お岩木」という言葉を使ったわけです。

大崎 紀夫

投句募集

今回は「秋の季語」でご自由にお読み下さい。10月19日を締切、平成31年1月発送の『新年号』にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承下さいませ。皆さまの投句をお待ちしております。
〒107-0062 港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。
ウエップ編集室
電話03-5368-1870

第七十二回

食は命

食養研究者
武鈴子

そばは
贅沢な薬味とともに

「信濃では月と仏とおらが蕎麦」は、小林一茶の句としておなじみですが、一茶の故郷は雪深い信濃国水内郡柏原村。この地域は良質のそばが採れることでも有名で、一茶は十五才で江戸の奉公に出るまで、秋にはあたり一面に白い花が咲くそば畑を見て育ったということです。

秋の信濃路を通ると、「新そば」と書いた旗がそここで風に揺らんでいるのをよく見かけます。そばの食べ比べをするのもまた秋の信濃の旅の楽しみの一つですが、以前、信濃のお坊さんにそばの最初の食べ方を教えていただいたことがあります。昔はそば畑の畔に辛味大根を植えていて、蕎麦が採れると、大根おろしと味噌をお椀に入れ、そばの茹で汁で伸ばしたつゆでそばを食べたという話でした。

『本朝食鑑』では、そばの効能は「気分を穏やかにし、お腹をくつろげ、脾胃のつかえをなくす」また、「水腫、尿の白濁、下痢、腹痛、気の逆上を治す」とあり、体を冷やす性質と記載されています。

だから、そばを食べるときは、体を温める性質の山葵やねぎ、七味唐辛子などの薬味をそばつゆに加えてバランスをとっているのですね。

昔は、辛味大根汁・花鰹・山葵・陳皮(みかんの皮)、唐辛子・海苔・焼き味噌・梅干しなどを用意してつけ汁に加えて食べたと記載されています。

贅沢な薬味を見習いましょう!

平成30年度 後期 仏教講座のご案内

梅窓院では10月より平成30年度後期 仏教講座を開講します。今年度も5名の先生をお迎えしております。どうぞお気軽にご参加下さい。
※詳しくは別紙チラシをご覧ください。

お檀家さんに伺いました

平成30年施餓鬼にて

「毎年参加しています。」

毎年、母の代わりに参加しています。元々お経を聴くのが好きで、今回もご僧侶のハーモニーが素晴らしく感動しました。また、神居上人の法話は物静かで語り掛けるような話し方でどんどん引き込まれていきました。お話を聞いて平等院にも行きたくなりました。

平成30年度会計報告

自 平成29年4月1日

至 平成30年3月31日

(単位：千円)

■護寺費・年会費・墓地管理費

収入の部		支出の部	
護寺費・年会費として	78,024	浄土宗課金及び大本山宛志納金	3,292
		法要費(仏具・法衣・線香など)	27,622
墓地管理費として	29,448	保守修繕費(建物)	39,792
		保守修繕費(墓苑・境内)	7,271
梅窓院からの繰入金	9,227	人件費	31,965
		事務費(郵送費・コピーなど)	6,757
合計	116,699	合計	116,699

会計報告を本誌に掲載させていただきます。ご確認を宜しくお願い致します。

梅窓院より会計のご報告

梅窓院のお墓とペット供養の窓口

日本エキスパートシステム 墓苑事業部からのお知らせ

梅窓院に新しくできた梅林苑(樹木葬墓地)のご案内を始めて1年ほど経ちます。私(森)はたまにゴルフに行くのですが、ホールインワンの記念植樹を見ると樹木葬墓地に見えるようになりました。植樹の脇に名前と達成日が書かれているのですが、それを享年に直したらそのままお墓になりそうな気がします。職業病でしょうか?

さて、昨年も同じことを書きましたが今の時期、墓所の草木が著しく育っています。定期的に墓苑内手入れを依頼されている方も増えました。剪定、草むしりなどを承っておりますのでお気軽にお問合せ下さい。(連絡先:03-3404-1230)

お彼岸お中日正午より「動物慰霊法要」を本堂で行います。ご先祖様のお参りと同様に、可愛かった子たちを皆さんで偲ぶ時間をもちませんか? 梅窓院入口の無礙光塔(ペット供養塔)のお写真ご覧になりましたか? あの子たちの笑顔の写真撮った方々のご苦労は相当だと思います。ペットちゃんと同じ笑顔で撮ったのでしょね。(墓苑部 森)

発行/梅窓院
発行日/平成30年9月1日
発行人/中島 真成
編集/青山文化村
住所/〒107-0062
東京都港区南青山2-26-38

電話/03-3404-8447
FAX/03-3404-8436
ホームページ/<http://www.baisouin.or.jp/>
E-mail/jodo@baisouin.or.jp
題字/中村康隆元浄土門主
総本山知恩院第八十六世門跡

清浄華院カウンセリング研修会のお知らせ

梅窓院では6月より浄土宗大本山清浄華院のカウンセリング研修会を開催しています。聞き上手・話し上手になるための研修会です。どなたでもご参加できますので、詳しくは同封のチラシをご覧ください。